

井口 敬一（いぐち けいち）先生のプロフィール

徳島大学医学部卒業。第1内科教室にて血液疾患、免疫アレルギー疾患の研究・診療に従事。
医学博士。現在いぐちクリニック院長。

専門科目・領域： 免疫、アレルギー（日常診療におけるプライマリーケア全般）

◆先生が初めて漢方と出会われたのはいつ頃ですか

1985年頃、突発性血小板減少症の方にステロイド減量のため小柴胡湯を追加投与して減量に成功し、血小板数も改善した事に驚いて漢方の勉強を始めた。



◆先生の御専門で漢方はどのような効果を発揮していますか

日常の風邪症状からアレルギー性の喘息、アトピー性皮膚炎、ストレス性によると思われる多様な疾患に対し使用し、患者さんに喜んでもらっている。

身近な高血圧症についても西洋薬に補助的に漢方治療も併用すると有効なことも多い。

◆普段の治療で漢方薬と西洋薬との割合はどれくらいですか

漢方薬 6 西洋薬 4 の比率だと思う。

◆10年後の漢方医療はどうなっている（またはどうあってほしい）とお考えですか

漢方治療はもっと日常的に使用され、西洋医学ともうまく溶けこんで互いに補い合っただけでオーダーメイド医療に貢献していると思います。

そのことを防ぐには、漢方医学のみならず、今の医療制度のしくみが諸外国とどう違うのか、正確に国民に知ってもらうことが大切です。

◆先生ご自身漢方を飲んで効果を実感なさったことがありますか

はい。腰痛時に芍甘黄辛附湯のつもりで麻黄附子細辛湯、芍薬甘草湯、ブシ、大黄をのむと、腰のあたりがサーッと暖かくなり数日で痛みも消えました。



◆これから漢方医を志す方に一言お願いします

「自分の専門性の先に必ず漢方医療と出会う機会がある」

そのチャンスが自分の学ぶ世界がひろがる大きな契機となるのでしょう。



◆漢方に関心のある一般の方に一言お願いします

漢方も西洋医療も治療するときには、素直に心をひらいて
医師と向き合っ取り組んでいって欲しい。

何気ない患者のひと言が難病の治療を開くこともあります。

◆座右の銘、好きな言葉などありましたら教えてください

「良い患者は良い医師を育てる」

◆その他、ご意見ご感想などありましたらお聞かせ下さい

漢方を学んでみて、人間の発生から進化まで関係しているのに驚かされます。
私達ヒトの祖先である類人猿のころ、乾燥した大地から木の根を掘って
食用にして生きのびたことを知りました。

現代アフリカの乾燥地帯でも一部に食習慣が残っているようです。
生薬の歴史は、20万年にも及ぶのでしょうか。



注意:先生へのインタビューは、当会が2004年11月に行った内容です。